

## 【年次・領域】

入学年次の次の年次以降（2年次）・体づくり運動

## 【目的・趣旨】

自己および仲間の課題解決につながるICTの活用

## 1 実施の概要

- （1）実施環境：体育館（Wi-Fi 環境あり）、オフラインでの利用
- （2）使用機器：プロジェクター、教員用タブレット1台、生徒用タブレット（グループで1台）
- （3）活用ソフト：プレゼンテーションソフト、動作解析ソフト（Kinovea）
- （4）活用の目的：生徒の学習の充実（学びに向かう力、人間性等の育成）
- （5）実施月・対象：令和4年5月・入学年次の次の年次以降（2年次）

## 2 活用の実際

### (1) 授業での活用場面

#### 【育成を目指す資質・能力】

仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

#### 【学習の流れ】

##### 【導入】

本時の目標・内容の確認

##### 【展開】

ボールを活用した体づくり運動  
投球動作の説明・投球動作の撮影と確認(グループ学習)

##### 【まとめ】

本時の振り返り・次時の説明

#### 【活用場面①】

##### 場面：展開①

仲間に積極的にアドバイスできるようにするため、投球動作のポイント(体重移動・角度・体の回転)を明確にする必要があると考え、動作解析ソフト(Kinovea)を活用して説明した。(プロジェクター活用、スクリーンに投影)

#### 【活用場面①写真等】



#### 【活用場面②場面】

##### 場面：展開②

グループごとに投球動作をタブレットを用いて撮影し、その後仲間と映像を視聴しながら自己の課題を発見するため互いに意見を出し合った。

投球動作のポイントを明確にしたことによりグループ内において積極的にアドバイスする姿が見られた。

#### 【活用場面②写真等】



撮影の様子

意見交換の様子

## 3 参加した生徒の感想等

- ・自分では気づかない課題を仲間のアドバイスによって知ることができ投球動作の改善に役立った。
- ・お互いの良さを認め合うことができ自信につながった。
- ・今までよりも仲間と教え合う時間を増やすことができた。
- ・正しいフォームでできているつもりでも映像を見てみると意外とできていないことに気づいたり、回数を重ねるごとに上手になっていることを実感することができた。
- ・客観的に自分が運動している姿を見ることは大切だと感じた。

## 4 成果と課題

### 【成果】

- ①模範の映像をKinoveaを活用したことによって、生徒が投球動作のポイントを段階的に捉えることができた。
- ②正確な投球動作の映像を共有したことによって、生徒同士の積極的な意見交換につながった。
- ③知識及び運動を習得させるだけでなく、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を育成するためにも、体育でのICT機器の活用は有効であると感じた。
- ④本授業では、ICTを活用することで正確な投球動作を習得でき、投力が向上した生徒が多くみられたため、他種目においても運動（技能）を習得する手段としてICTを活用することは有効であると感じた。

### 【課題】

- ①動作解析ソフトを教員の説明時のみ活用したが、生徒が自らの投球動作についてソフトを活用する時間があれば、より活発な意見交換ができ、効率的な運動（技能）の習得につながったのではないかと。
- ②ICT機器を用いる時間が増えることにより、体を動かす時間が減少してしまうため、より効率的なICTの活用方法が求められる。引き続き、効率的・効果的なICTの活用方法を模索していきたい。

## 5 その他（活動風景等）

